

第 98 回助産師国家試験分析報告

第 98 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、現在社会的に広く認知されている「助産師の声明（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師のコアコンピテンシー（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師教育のミニマム・リクワイアメンツ（公益社団法人全国助産師教育協議会）」、「助産師の卒業時の到達目標（厚生労働省）」を「助産師国家試験出題基準」に照合させて用いた。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ①設問と解答肢の検討
- ②知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス
- ③助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 98 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午前問題 21 を不適切な問題とし、午前問題 23 と午前問題 39 を課題のある問題と判断した。詳細については表 1 を参照されたい。

II. 知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス

知識・技術・態度別からみた出題内容のバランスについては「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた国家試験出題数」（表 2）、および「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた出題テーマ」（表 3）を参照されたい。

助産師の卒業時の到達目標は、大きく以下の 9 項目に分類される。

- 1) 母子の命の尊重
- 2) 妊娠期の診断とケア
- 3) 分べん期の診断とケア
- 4) 産じょく期の診断とケア
- 5) 出産・育児期の家族ケア
- 6) 地域母子保健におけるケア
- 7) 助産業務管理
- 8) ライフステージ各期の性と生殖のケア（マタニティステージを除く）
- 9) 助産師としてのアイデンティティ形成

過去 3 年間（本年含む）において、9) 助産師としてのアイデンティティ形成の範囲からは出題されていない。ただし、この内容はすべてに関連し出題が難しい問題であるため、出題バランスが悪いとは言いきれない。それ以外の項目は、バランスよく出題されている。

今年度は、知識と技術・態度の割合は、知識 75 問(68.2%)、技術・態度 35 問(31.8%)と知識に関する問題が多かったものの、技術・態度に関する問題は第 97 回(35.5%)とほぼ同率の出題率であった。また、2) 妊娠期の診断とケアに関する問題は、16 問(知識 14 問、技術・態度 2 問)で全体の 14.7%

の出題率であり、第 97 回 (20.9%)、第 96 回 (21.8%) と比べてかなり減少していた。3) 分べん期の診断とケアに関する問題は、24 問(知識 14 問、技術・態度 10 問)で全体の 21.8%の出題率であり、昨年(第 97 回)とほぼ同率であった。4) 産じょく期の診断とケアに関する問題は、34 問(知識 26 問、技術・態度 8 問)で全体の 30.9%の出題率であり、昨年の 29.1%とほぼ同率であった。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否か

助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた国家試験出題数(表 2)より、過去 3 年間では、第 98 回は知識を問う問題 68.2% (第 97 回 64.5%、第 96 回 79.1%)、技術・態度を問う問題 31.8% (第 97 回 35.5%、第 96 回 20.9%) であった。助産師は実践能力が求められる専門職であるため、単に知識を問うのみでなく、技術や態度を問う問題が増えたことは望ましい。8) ライフステージ各期の性と生殖のケアについても思春期から中高年までバランスよく出題されていた。さらに、不妊に関する対応の問題、ハイリスク母子のケアに対する問題、地域母子保健および助産業務管理に関する問題が増加し、現在の母子保健医療の現状に合わせた問題も出題されていた。

総括

1. 出題問題の検討については、1 問を不適切な問題、2 問を課題のある問題と判断した。
2. 助産師の卒業時の到達目標に沿った問題が、知識・技術・態度別にバランスよく出題されていた。
3. 助産技術・態度に関する問題も全体の 31.8%に見られ、今日の周産期課題とニーズに合う助産技術に関連した内容も盛り込まれていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。